

名古屋大学附属図書館研究開発室  
年次報告  
2021

*Annual Report of Nagoya University  
Library Studies 2021*



## 目 次

I. 名古屋大学附属図書館研究開発室規程 .....	1
II. 室 員 名 簿 .....	2
III. 事 業 報 告 .....	3
IV. 研究開発概況 .....	5

## I. 名古屋大学附属図書館研究開発室規程

制 定 平成 16 年 4 月 1 日規程第 177 号

改正令和 2 年 9 月 14 日名大規程第 99 号

(設置)

第 1 条 名古屋大学附属図書館に研究開発室を置く。

(目的)

第 2 条 研究開発室は、名古屋大学附属図書館における学術情報の収集、保存、提供等の教育研究支援活動に関する研究開発及び図書館情報教育並びに図書館業務への支援及び助言を行い、もって図書館の機能の強化を図るとともに、高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的とする。

(室長)

第 3 条 研究開発室に室長を置き、附属図書館長をもって充てる。

2 室長は、研究開発室の業務を掌理する。

(室員)

第 4 条 研究開発室に、専任室員を置くことができる。

2 専任室員は、本学大学教員のうちから、附属図書館長の推薦に基づき、東海国立大学機構の長が任命する。

3 第 1 項に定めるもののほか、研究開発室に兼任室員を置くことができる。

4 室員は、室長の指示に従い、研究開発室の業務に従事する。

(雑則)

第 5 条 この規程に定めるもののほか、研究開発室に関し必要な事項は、附属図書館長が定める。

附則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附則(令和 2 年 9 月 14 日名大規程第 99 号)

この規程は、令和 2 年 9 月 14 日から施行し、改正後の第 4 条第 1 項の規定は、令和元年 7 月 1 日から適用する。

## Ⅱ. 室員名簿

	氏名	専門領域／所属・職名／着任
室長	佐久間 淳一	言語学 副総長（図書館担当）、附属図書館長 人文学研究科・教授 2020年4月～
兼任室員	塩村 耕	日本文学 人文学研究科・教授 2003年4月～
兼任室員	外山 勝彦	知識情報処理・自然言語処理・法情報処理 情報基盤センター・教授 2013年3月～
兼任室員	小川 泰弘	自然言語処理・法情報処理 情報基盤センター・准教授 2013年4月～
兼任室員	頼 偉寧	認知科学 教養教育院・特任准教授 2014年4月～
兼任室員	斎藤 夏来	日本史学 人文学研究科・教授 2017年4月～
兼任室員	石川 寛	日本史学 人文学研究科・准教授 2019年7月～
兼任室員	佐野 智也	法情報学、立法沿革・体系化 法学研究科・特任准教授 2020年4月～

### Ⅲ. 事業報告

#### ①室員及び研究開発内容

室長	佐久間 淳一	全体統括
兼任教授	塩村 耕	(1)附属図書館所蔵和書古典籍の調査・目録作成と〈名大システム〉古典籍書誌DB構築の研究、及び文化資源活用のための研究 (2)西尾市岩瀬文庫所蔵古典籍の調査・DB化、及び文化資源活用の地域連携の研究
兼任教授 兼任准教授	外山 勝彦 小川 泰弘	(1)学術コンテンツ・サービスのための統合情報基盤の整備に関する検討
兼任准教授	頼 偉寧	(1)Develop a series of Nagoya University library workshops on "Logical Thinking Skills for Academic Writing". (2)Develop the library workshop series into a preliminary course for the Mei-Writing summer camp. (3)Develop teaching materials for the workshop series.
兼任教授	斎藤 夏来	(1)高木家の葬地・墓所について (2)野間家文書に関連して
兼任准教授	石川 寛	(1)高木家文書の文化財調査に向けた整理作業 (2)コンテンツ開発・地域連携強化
兼任講師	佐野 智也	(1)デジタルアーカイブの研究 (2)法学研究科公開「人事興信録データベース」の開発

②活動概況（開発室全体に関する事項）

高木家文書常設展	通年
----------	----

③刊行物

名古屋大学附属図書館研究年報 第19号	2022年発行
名古屋大学附属図書館研究開発室年次報告2021	2022年発行

#### IV. 研究開発概況

■ 佐久間 淳一（室長・副総長（図書館担当）・附属図書館長・人文学研究科教授）

■ 研究開発事項

全体統括

■ 成果のリスト

[その他の役割]

1. 国立大学図書館協会理事館館長
2. 国立大学図書館協会システム委員会委員長
3. 東海北陸地区国立大学図書館協会会長
4. 東海地区大学図書館協議会会長
5. 東海地区図書館協議会会長
6. 名古屋大学高等教育研究センター主催学生論文コンテスト審査員



■ 塩村 耕（兼任室員・人文学研究科教授）

■ 研究開発テーマ

- (1) 附属図書館所蔵和書古典籍の調査・目録作成と〈名大システム〉古典籍書誌DB構築の研究、及び文化資源活用のための研究
- (2) 西尾市岩瀬文庫所蔵古典籍の調査・DB化、及び文化資源活用の地域連携の研究

■ 研究開発概況

(1) 附属図書館所蔵和書古典籍の調査・目録作成と〈名大システム〉古典籍書誌DB構築の研究、及び文化資源活用のための研究

- ・前年度に引き続き、附属図書館所蔵の古典籍の調査及びDB化作業をすすめた。
- ・〈名大システム〉古典籍書誌DBの運営・改善を支援した。
- ・「古書の会」月例会を主宰、図書館職員・一般市民・学生が参加して、古文献の読解能力と古典籍取り扱い能力の向上に努めた（コロナのため休会中）。

(2) 西尾市岩瀬文庫所蔵古典籍の調査・DB化、及び文化資源活用の地域連携の研究

- ・前年度に引き続き、岩瀬文庫所蔵古典籍の悉皆調査及びDB化作業をすすめた。
- ・既に公開中の岩瀬文庫書誌DBのデータを改善した。
- ・講演会や著述等を通して、岩瀬文庫の価値や悉皆調査の意義について社会に情報を発信した。
- ・新編西尾市史編集委員会に委員（学芸・文化担当）として参加した。
- ・2021年10月に西尾市で催された（リモート開催）第15回「にしお本まつり」に実行委員会委員長として参加し、書物を通じた町おこしという地域連携に取り組んだ。

■ 成果のリスト

[論文]

1. 「近世前期の出版界と西鶴」．藤本幸夫編『書物・印刷・本屋一日中韓をめぐる本の文化史』．勉誠出版．2021年6月．594-610頁．
2. 「コロナとコロリ―幕末の江戸災厄体験記の奇書『後昔安全録』とその著者について」．日比嘉高編『疾病と日本人』．三弥井書店．2021年7月．195-213頁．
3. 「足代弘訓『学問答書』のこと」．『日本古書通信』1107号．2021年10月．2-4頁．
4. 「虫だらけの伊東玄朴書簡―これらと闘う蘭医」．『日本古書通信』1109号．2021年12月．2-4頁．
5. 「雑俳的俳諧の参考書『名所山水辺居所人倫支躰』」．『あいち国文』15号．2022年2月．57-76頁．

[著書]

1. 『(村上忠順叢書第二十二) 忠順翁の『座右記』を読むⅢ』(単著)．2022年3月(

予定)。村上忠順翁顕彰会刊。＊頁。 ※2020年度に催した四方樹大学の連続講義を講義録として刊行したもの。

[講演等]

1. 「江戸の人情を読む 古書簡の世界」. 2021年4月～. NHK文化センター名古屋  
※2022年3月まで毎月1回全12回の連続講演
2. 「江戸時代文人の手紙を楽しむ」. 2021年6月12日. 東洋文化振興会（於新日本法規出版（株）本社別館） ※講演
3. 「忠順翁の『座右記』を読む」. 2021年10月1日・11月5日・12月3日・2022年1月7日. 村上忠順翁顕彰会（於豊田市前林交流館） ※連続講演
4. 「見ぬ世の人を友とすること」. 2021年10月13日. 愛知県立半田高等学校「大学・学部・学科研究会」 ※講演
5. 「中根東里と芳子と佐野と」. 2021年10月16日. 佐野市郷土博物館・中根東里展記念講演会（於佐野市総合福祉センター） ※講演
6. 「岩瀬文庫本をちょっとだけ専門的に読む～古典文学ゼミナール入門13」. 2021年10月30日. にしお本まつり（於西尾市岩瀬文庫） ※講演（リモート）

[その他]

なし。

- 外山 勝彦（兼任室員・情報基盤センター教授）
- 小川 泰弘（兼任室員・情報基盤センター准教授）

#### ■ 研究開発事項

学術コンテンツ・サービスのための統合情報環境の整備に関する検討

#### ■ 研究開発概況

学術コンテンツ・サービスは、教育と研究における知の素材と成果を一元的に管理・提供する。本課題は、本学「学術データポリシー」（2020年10月制定）に基づき、本学の学術コンテンツ・サービスを実現するための統合情報環境を整備することを目標として、学内各組織と連携しつつ、附属図書館における学術コンテンツ・サービスの環境や体制・運用のあり方を検討する。

このことは、オープンサイエンスの推進に資することになり、ひいては本学の研究力の強化につながる。また、学術コンテンツの社会還元は、教育・研究に公的資金を使用した者の責任として必要である。したがって、学術コンテンツ・サービスの体制と運用を組織的に整備し、学内外の研究活動を支援することは、本学の喫緊の課題である。

本学では、研究戦略・社会連携推進分科会の下部組織として研究データ基盤整備部会が2019年12月に設置され、研究データと教育コンテンツを合わせて学術データとし、その基盤整備の検討が開始された。その結果、2020年10月に「学術データポリシー」が制定された。続いて2022年3月、同部会に学術データ基盤整備WGが設置され、同ポリシーの実施のための具体的な施策の検討が開始され、「学術データ基盤整備計画」が策定されつつある。また、その一環として、同年6月に情報・図書館サブWGが設置され、附属図書館における学術データの利活用の実施に関する検討が進められている。

本年度は、附属図書館職員、情報戦略室教員とともに同サブWGを7回開催し、主に次の活動を行った。

- ・「学術データ基盤整備計画」における附属図書館関係の実施項目の策定支援
- ・高木家文書デジタルアーカイブ拡充のためのヒアリング、デジタル画像作成における体制上および技術上の要求および課題の整理、アーカイブの利活用方法に関する議論
- ・学内におけるデータベース所在アンケート調査（2021年11月～2022年1月実施）の実施および結果の分析に対する支援、回答者への補充ヒアリングの実施、機関レポジトリで受入可能な研究データの範囲の検討、メタデータ付与作業における課題の整理

■ LAI Wai Ling 賴 偉寧(兼任室員・教養教育院特任准教授)

■ 研究開発事項

(1) Develop a series of Nagoya University library workshops on “Logical Thinking Skills for Academic Writing”.

(2) Develop the library workshop series into a preliminary course for the Mei-Writing summer camp.

(3) Develop teaching materials for the workshop series.

■ 研究開発概況

(1) Develop a series of Nagoya University library workshops on “Logical Thinking Skills for Academic Writing”.

The aim of this research is to transform a graduate course into an annual library workshop series titled "Logical Thinking Skills and Academic Writing". The goal of the workshop series is to teach students the necessary components of writing a satisfactory research paper. Specifically, the workshops aim to help graduate students as well as undergraduate students, through step-by-step training in logical thinking, develop the skills needed to write an academic paper with a clear thesis statement and convincing support.

(2) Develop the library workshop series into a preliminary course for the Mei-Writing summer camp.

From 2020, the library workshop series will be used as one of the selection criteria for students who would like to participate in the Mei-Writing summer camp. This means that a wider range of students may join the workshop series as a preliminary course for the summer camp. In order to develop the workshop series into a preliminary course for the summer camp, the primary goal in (1) would have to be adjusted. New teaching methods and materials would have to be developed.

(3) Develop teaching materials for the workshop series.

A textbook titled “The Thesis Statement Recipe: Textbook for the Library Workshop Series on Academic Writing and Logical Thinking Skills” was published internally by the library, and has been used for the workshop series since 2015. A new textbook will be available for both graduate and undergraduate students in 2022.

■ 成果のリスト

[論文]

1. Lai, W. L. How to write a winning research abstract. *Annals of Nagoya University Library Studies*. In press. 2022.

[講演]

2. Lai, W. L. “Academic Writing Education for Graduate Students”. Invited talk by Tsukuba University. March 23, 2022.

[その他]

- (1) Lai, W. L. “Why is it important to think logically for your writing”. Nagoya University Library workshops on “Logical Thinking Skills for Academic Writing” via Zoom, November 17, 2021.
- (2) Lai, W. L. “How to make your writing clear”. Nagoya University Library workshops on “Logical Thinking Skills for Academic Writing” via Zoom, November 24, 2021.

■ 齋藤夏来（兼任室員・人文学研究科・教授）

■ 研究開発事項

- （1）高木家の葬地・墓所について
- （2）野間家文書に関連して

■ 研究開発概況

- （1）高木家文書の葬地・墓所について

石川寛「西高木家墓所について」（大垣市教育委員会編集・発行『岐阜県史跡 旗本西高木家陣屋跡一測量調査・発掘調査報告書一』大垣市埋蔵文化財調査報告書第二三集、2013年3月13日発行）を参照しつつ、近世大名の葬地・墓所一般に関する調査研究を行った。岸野利彦編『尾張藩社会の総合研究』八の発刊にむけて、論考を寄稿したところである。

- （2）野間家文書の活用について

拙稿「知多大仙寺檀越天木氏をめぐる古文書・過去帳・系図」『名古屋大学附属図書館研究年報』17（2020年3月）の類例として、三河足助紙屋の先祖成立に関する調査・研究を継続している。

■ 成果のリスト

とくになし。ただし上記（1）（2）とも、新年度以後に成果を公刊できる可能性がある。

■ 石川 寛（兼任室員・人文学研究科准教授）

■ 研究開発事項

- (1) 高木家文書の文化財調査に向けた整理作業
- (2) コンテンツ開発・地域連携強化

■ 研究開発状況

- (1) 高木家文書の文化財調査に向けた整理作業  
名古屋大学附属図書館が所蔵する高木家文書について、昨年度に引き続き目録整備作業を実施し、補遺文書の整理を進めた。
- (2) コンテンツ開発・地域連携強化
  - 1. 高木家文書のデジタル化  
高木家文書のうち治水関係資料について集中的にデジタル撮影を実施した。
  - 2. 高木家文書の修復  
国庫補助および住友財団の助成を得て、河川絵図を中心とした高木家文書の修復を実施した。修復は2021年度から3年計画である。
  - 3. 高木家文書資料館  
常設展の展示替えのため、新たなレプリカを作成した。
  - 4. 東高木家治水文書の寄贈  
旧蔵者である故森川勝之助氏の、研究資料として広く社会に役立てて頂きたいという遺志により、東高木家旧蔵の治水関係資料約8000点の寄贈をうけた。

■ 成果のリスト

[編著・監修]

- 1. 石川寛編著『古絵図・古文書で読む木曾三川流域―旗本高木家文書から―』 風媒社 2021年
- 2. 石川寛監修、平井敬編著『すごろくで学ぶ安政の大地震』 風媒社 2021年

[論文]

- 1. 石川寛「宝暦治水前の普請意見書の分析 その1」『名古屋大学附属図書館研究年報』 19 2022年3月

[講演]

- 1. 石川寛「高木家文書世界」 第17回名古屋大学ホームカミングデイ 秋季サロン「名大文学部ってどんなところ？」 2021年10月16日
- 2. 石川寛「安政東海地震における尾張徳川家の救済活動」 愛知県公文書館歴史資料講演会 2021年10月23日
- 3. 石川寛「高木家文書から見る木曾三川の治水」 第38回岐阜シンポジウム「木曾・長良・揖斐 歴史、自然、地域づくりを考える」 2022年3月21日

■ 佐野 智也（兼任室員・法学研究科特任講師）

■ 研究開発事項

- （１）デジタルアーカイブの研究
- （２）法学研究科公開「人事興信録データベース」の開発

■ 研究開発概況

- （１）デジタルアーカイブの研究

デジタルアーカイブの推進により、ジャパンサーチとの連携や横断的な利活用を進めている図書館が多くなっている。図書館サービスの向上を図るため、デジタルアーカイブ学会に参加し、デジタルアーカイブの動向を調査した。

- （２）法学研究科公開「人事興信録データベース」の開発

法学研究科の研究プロジェクトでは、学術情報資源として、「人事興信録データベース」を公開している。2018年8月の公開以降、総利用者数は9万以上あり、一日あたりの利用者数も増加傾向にある。

本年度は、コンテンツの拡充を進めた。さらに、本データベースの国際的な利活用の促進につなげるため、英語インターフェイスの開発を行なった。

■ 成果のリスト

〔学会発表〕

佐野智也，増田知子：『人事興信録』データからの親族ネットワークの可視化，デジタルアーカイブ学会誌4巻2号(2020.4)，195-198頁，DOI: [https://doi.org/10.24506/jsda.4.2\\_195](https://doi.org/10.24506/jsda.4.2_195)



名古屋大学附属図書館研究開発室年次報告

第 20 号 (2021 年度)

2022 年 3 月 31 日発行

編集・発行 名古屋大学附属図書館研究開発室  
〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
電話 052-789-3697

URL <https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/libst/>

E-mail [libst@nul.nagoya-u.ac.jp](mailto:libst@nul.nagoya-u.ac.jp)

